

女性の健康課題取り組みの阻害要因・課題

- ・女性特有の健康課題は潜在化してしまい、課題抽出が難しい。
- ・受療率低い(婦人科に受診することへの抵抗が強い)
- ・健康課題が抽出できないので、健康課題があるにも関わらず適切な対応ができていない。(サポート不足)
- ・多様な原因による健康課題発生である可能性が高いのでセルフケアを組み合わせることが重要であるが、情報過多により、正しい情報源を判別することが難しい。適切な対応が遅れたために、離職という選択をせざるを得ないことがある。
- ・プレコンケアの情報不足から、現在、将来に出産を考えている女性の相談窓口がない。
- ・女性の健康課題への取り組みは、健保ではなく、企業の自主性によるところが大きい。専門知識がなく、対応ができていない。

事業目的

背景・課題を踏まえて、本事業では健康保険組合が女性の健康課題の抽出から介入までを専門家(婦人科医師、システム開発研究者)から学ぶことにより、習得し、またその知見により開発されたシステムを共同活用することにより、女性の健康課題解決を長期的な目標とする。

共同事業で役割分担、アカデミアの知識を共同で受けることにより解決

課題と阻害要因解決のための保健事業 共同事業

- ・健康保険組合が保有しているデータ(健診結果、検診結果、問診、レセプト)を用い
- ・『女性の健康課題管理システム』のためのアルゴリズムを開発する。
- ・『女性の健康課題管理システム』から現状把握と課題抽出をし、勧奨手法を検討。
- ・専門家の知見で設計したシステムを開発することにより、健康保険組合が通常業務として女性の健康課題解決インフラを加入者に提供できる。
- ・記録をつける→「普段」との違いを意識する→専門家の判断によるセルフケア、プロフェッショナルケアの基準を決める。(アプリ活用)
- ・女性特有の健康課題や病気、更年期障害に関するセミナーや動画配信などによりヘルスリテラシーの向上施策をする
- ・がん検診など婦人科検診のメリットデメリットの周知
- ・プレコンセプションケアや不妊対策: 専門家講演の実施や情報発信。
- ・保険適用によるオンライン診療を組み合わせた低用量ピル処方プログラム
- ・適切かつ安全なセルフメディケーションの案内。重篤な病気がある加入者が安易にセルフメディケーションを導入しないように専門家の判断によるセルフメディケーションを推奨。
- ・セルフケアからプロフェッショナルケアへの勧奨。

実施体制

本事業は、事業運営委員会を組織して実施する。委員会事務局は代表組合とする

- 健保組合:専門家の指導のもと、問診、健診(検診)結果、レセプトから得たデータをもとにアルゴリズム開発に協力をする。
- 研究機関:問診結果、健診(検診)結果、レセプトを専門家として分析・解析をし、アルゴリズムを開発する。
- システム開発会社:完成したアルゴリズムをもとに、システムを開発する。正確なアウトプット出力のために問診策定のフォーマットなどにも意見を述べる。

スケジュール		令和6年4月	5月	6月	7月	8月	9月
事業実施内容		事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催
		専門家によるアルゴリズム開発（問診設計）					
		専門家による問診設計 現状把握と課題抽出、勧奨手法の検討					
					問診配信・集計		
				女性の健康課題管理システム（仮称）開発			
事業実施内容		10月	11月	12月	令和7年1月	2月	3月
		事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催
		専門家によるアルゴリズム開発					
		専門家による問診設計 現状把握と課題抽出、勧奨手法の検討					
		女性の健康課題管理システム（仮称）開発					
				女性の健康課題管理システム試験運用と評価			
						事業評価と報告書作成	

事業概要

女性が自分らしくライフデザインを構築するための健康課題解決インフラ整備のための共同事業～医師設計によるセルフケアとプロケア
セルフケア(セルフメディケーション)とプロフェッショナルケア(メディカルケア・かかりつけ医)

